

畑中良輔先生追悼

土屋 博

畑中良輔先生（大正十一年生まれ、平成二十四年五月二十四日歿）は、バリトン歌手、歌曲作曲家、音楽評論家にして東京藝大教授、さらに新国立劇場の初代オペラ部門藝術監督を務めらる。享年九十歳、合掌。

朝日新聞夕刊の演奏會評など、先生の聲樂、歌劇に關する文章は、御自身聲樂家な
ることを存分に活かしたるものにて、他の追隨を許すことなかりき。晩年に至る迄活
躍を續けられたるは、高齢化社會を生くる模範となるべし。

我が母の屬せし合唱團の指揮者畑中門下なる故をもつて、小生も杉竝の畑中邸にお
邪魔したる想ひ出あり。そのレツスン室を見るに、樂譜、レコード類のみならず、詩
集、文學全集、古今東西の書籍、堆うづたかく天井まで積み上がり。父の次兄（ピアニス
ト）とも友人の由にて、京都吉田山の家（父の實家）の宴に御來駕ありたることも伺
ふ。イイノホールの「青の會」の休憩時間に親しく御目に懸かる折もあり。其の後、
小生結婚式の折には祝電も頂きたり。ちなみに、小生の家内は畑中先生の孫弟子に當
たる。

畑中氏の歌はさほどの美聲にはあらねど、信時潔の連作歌曲「沙羅」の録音は、柳
兼子の録音と雙璧と言ふべく、その日本語歌唱の格別に味はひ深き語感にこそ酔ひし
か。

畑中氏の御著作としては、ハンス・ホッターやシュヴァルツコップなど來日演奏家
の評を中心としたる「演奏家的演奏論」も名著なれど、自傳的著作たる「繰り返せな
い旅だから」シリーズ全四卷（「オペラ歌手誕生物語」など）は、あたたかき御人柄
を偲ぶよすがとなれり。